

溝上慎一の教育論(動画チャンネル) No403
(次期学習指導要領にむけた審議まとめの方向性)

①個別最適な学びは次期学習指導要領の どこに落とし込まれるか？

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

審議まとめの方向性

- ① 「個別最適な学び」は次期学習指導要領のどこに落とし込まれるか
- ② 「中核的な概念」による深い理解から「統合的な理解」「総合的な発揮」へ、最後の問題点は？
- ③ 総合的な学習・探究の改善点—情報教育とのカップリングからマイ探究（個人探究）へ
- ④ 学習評価（観点別評価）—学びに向かう力・人間性等を各教科等の個別水準で見取れる形式を示せるか？
- ⑤ 高校にとっての柔軟な教育課程—義務教育段階での施策とのズレをどのように埋めるか



● 教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)

教育課程企画特別部会 論点整理

- [教育課程企画特別部会 論点整理 \(PDF:5.2MB\)](#) 
- [教育課程企画特別部会論点整理 参考資料集\(1/3\) \(PDF:8.3MB\)](#) 
- [教育課程企画特別部会論点整理 参考資料集\(2/3\) \(PDF:8.9MB\)](#) 
- [教育課程企画特別部会論点整理 参考資料集\(3/3\) \(PDF:9.9MB\)](#) 

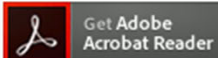
論点整理のポイント

論点整理の要点をイラストやアイコン等も交えて分かりやすく整理したポイント資料を作成しています。

- [教育課程企画特別部会 論点整理 \(ポイント:概要版\) \(PDF:1.3MB\)](#) 
- [教育課程企画特別部会 論点整理 \(ポイント:詳細版\) \(PDF:1.9MB\)](#) 

お問合せ先

初等中等教育局教育課程課教育課程企画室
電話番号:03-5253-4111



PDF形式のファイルを御覧いただく場合には、Adobe Acrobat Readerが必要な場合があります。
Adobe Acrobat Readerは開発元のWebページにて、無償でダウンロード可能です。

『論点整理』 (2025年9月25日)



総則・評価特別部会や各教科等ワーキンググループにおける議論を踏まえ一部内容を更新
2026年1月29日最新版



次期学習指導要領の基盤としての三位一体

『論点整理』（2025年9月25日）

次期学習指導要領に向けた基本的な考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～

①

「主体的・対話的で深い学び」の実装 (Excellence)



「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じた資質・能力の育成について、一層の具現化・深化を図る

②

多様性の包摂 (Equity)



子供たちの多様性を包摂することで、一人一人の意欲が高まり、可能性が開花し、個性が輝く教育を実現する

③

実現可能性の確保 (Feasibility)



持続可能な在り方を追求し、教師と子供の双方に「余白」を創出することで豊かな学びに繋げる

学びをデザインする高度専門職としての教師

「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白

デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備

総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに



生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手をみんなで育む



① 深い学びの実装

② 多様性の包摂

③ 実現可能性の確保

現行の学習指導要領
「道半ば」

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の授業開発
(令和の日本型学校教育答申、2021年1月)



単元内自由進捗学習

主体的・対話的で深い学び を主として「個別最適な学び」を位置づける

『論点整理』（2025年9月25日）

1. デジタル学習基盤を前提にした改訂の方針

- 中教審のデジタル学習基盤特別委員会の整理を基に、総則で以下のようなデジタル学習基盤の意義を示すべき
 - ✓ 多様な子供たちにとっての包摂性を高めながら、教師にとって持続可能な形で主体的・対話的で深い学びを通じた資質・能力の育成に資する学習環境デザインを実現できる
 - ✓ 教師の指導のツールとしての側面に加え、学習者の学習ツールとしての側面を有しており、子供にとっての学びやすさの向上や合理的配慮の基盤として働き、多様な特性を持つ子供たちが主体的に学ぶための基礎となる
 - ✓ デジタルカリアルカ等の二項対立に陥らず、デジタルも最大限活用して一人一人の豊かな学びを充実させる視点が重要である
- 例えば生成 AI の更なる発展など、デジタル学習基盤自体は今後も変化していくことが想定される。こうした情報技術の進展に伴う取扱いは、必要に応じ別途ガイドラインや指導資料として示すことを学習指導要領や解説等に予め記載すべき
- 今後、各教科等において、資質・能力の記載や各教科等固有の学習過程を示していくに当たって、デジタル学習基盤が常に利用可能であることを念頭に検討すべき

2. 「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学びと協働的な学び」の整理

- 「対話的な学び」と「協働的な学び」、「個に応じた」と「個別最適」など、類似した用語が並立することによる混乱が生じないように適切に整理すべき
- 特に個別最適な学びについては、多様な子供たち一人一人に、「主体的・対話的で深い学び」による資質・能力の育成を図る旨を明確化しつつ、既に総則に記載がある「個に応じた指導」を発展的に置き換える形で整理すべき
- その際、左記のデジタル学習基盤の役割も踏まえつつ、教師主語の視点（※1）のみに留まらず、学習者主語の視点（※2）も含めた2つの視点をバランスよく踏まえた記載とすべき
（※1）教師が子供たち一人一人に応じて指導方法・指導体制を工夫していくという視点
（※2）子供自らが自己の学習を主体的に調整することを促すことにより、資質・能力の育成に資するとともに、一人一人の多様性に応じていくという視点
- 孤立的な学びに陥ったり、集団の中で個が埋没してしまうことのいずれも避けながら、全ての子供の資質・能力の育成につながるよう、一斉・グループ・個別といった様々な形態を効果的に組み合わせて教育活動を組み立てていくことの重要性、対話的な学び・協働的な学びの前提としての集団作りや心理的安全性の確保の重要性なども示すべき

「個に応じた指導」
を発展させる形で整理してはどうか

一斉・グループ・個別といった様々な形態の効果的な組み合わせ

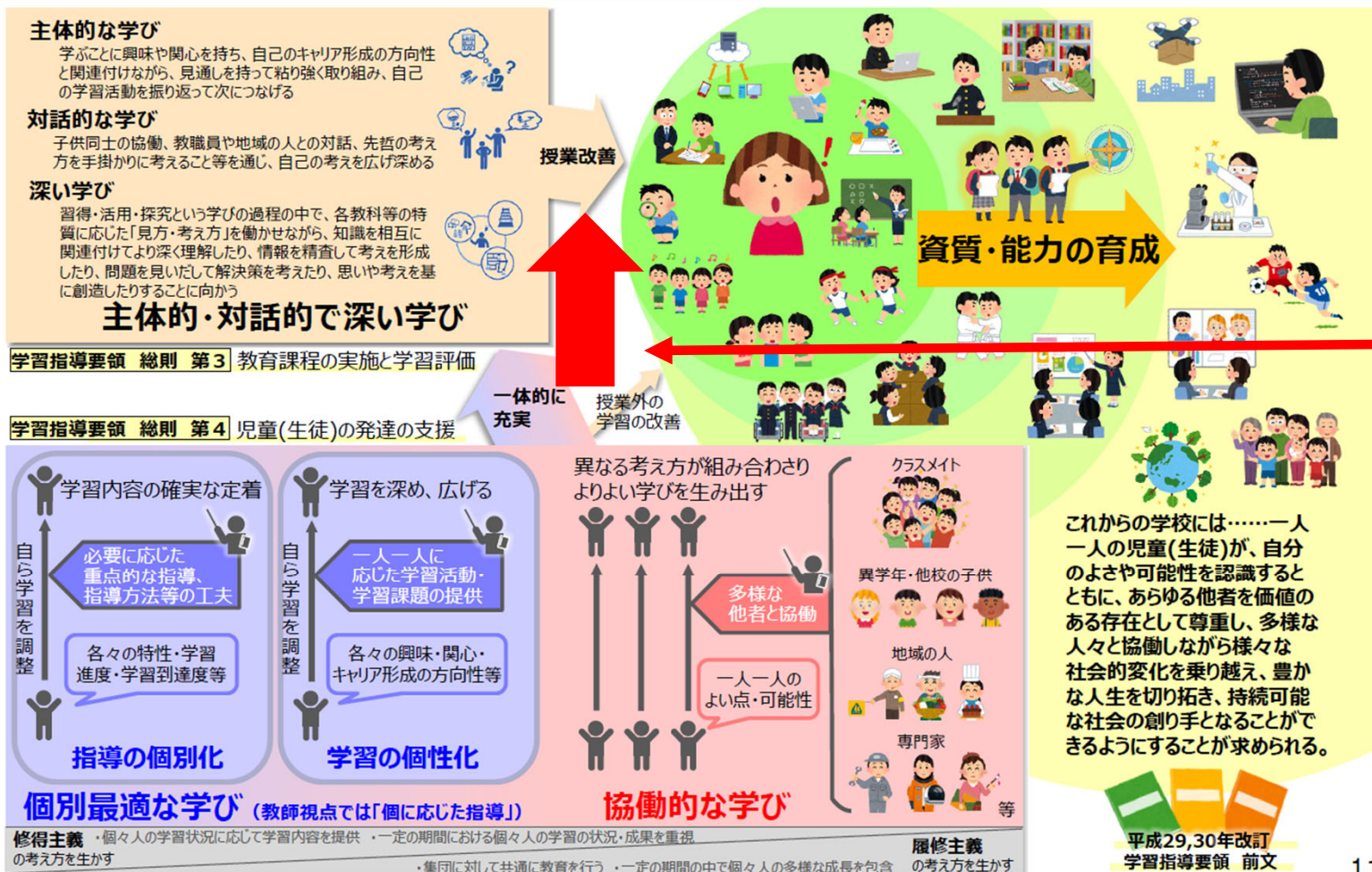
文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室（編）

『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のためのサポートマガジン『みるみる』』（令和7年4月）



この説明は混乱を招いています

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）



入れるならここでしょう！

※本資料は、「教育課程部会における審議のまとめ」（令和3年1月25日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）に基づき、概念を簡略化し図等として整理したものである

Point 1

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」をガイドする『みるみる』の**基礎編①**で、まず「主体的・対話的で深い学び」を説くことから始めている

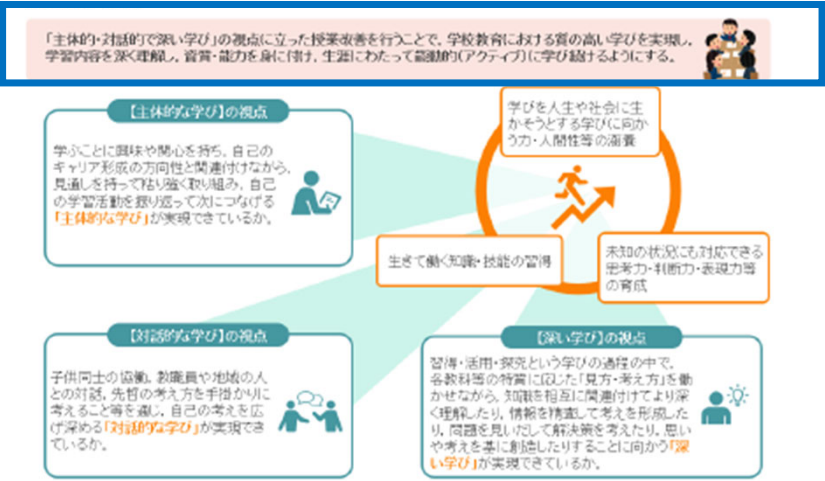
目次	
【はじめに】	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン『みるみる』 3
【基本編①】	これからの時代に求められる子供たちの資質・能力 5
【基本編②】	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の意義 8
【基本編③】	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に関するよある疑問 12
【基本編④】	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」をどのように進めていくのか？ 16
【実践編①】	実践編の内容と読み方・使い方 19
【実践編②】	全ての子供が熱中できる単元づくり ～「ワクワク」「資質・能力」のどちらも諦めない！ 戸田市立戸田東小学校の挑戦～ 20
【実践編③】	子供一人一人が学びの主役となる「複線型」授業づくり ～学習の自己調整と協働を ICT が支える！ 富山市立芝園小学校の挑戦～ 27
【実践編④】	自律した学び手をつむぐ「山吹セレクトタイム（YST）」 ～「豊かに学び合う環境」で子供の学びに寄り添う！ 名古屋市立山吹小学校の挑戦～ 36
【実践編⑤】	子供と教師がともに追究する「主体的・対話的で深い学び」 ～「単元マップ」と「豊富な手立て」で誰一人取り残さず学習のゴールへと導く！ 加賀市立山代中学校の挑戦～ 45
【実践編⑥】	1人1台端末の活用を軸にした「生徒が主体的に学ぶ授業」 ～「ラーニングガイド」×GIGA×教師の支援で学びの質を高める！ 吉田町立吉田中学校の挑戦～ 56
【実践編⑦】	「生徒が自分たちで考え、探究する授業」づくり ～ICTを活用した探究的な学びと豊かな協働で生徒の学びを深める！ 宮城県仙台第三高等学校の挑戦～ 66
【実践編⑧】	一人で、粘り強く、最後まで探究する「フリースタイルプロジェクト」 ～子供の多様性を前提に「学び続ける子供」を育てる！ 天童市立天童中部小学校の挑戦～ 77
【実践編⑨】	「好き」から始まる「My 探究」 ～学年に応じたステップで課題発見・解決能力を育む！ 福山市立福山中学校の挑戦～ 86
【実践編⑩】	地域と共に、地域の課題を解決する「笛吹グローバル」 ～生徒一人一人の思いを生かした探究により、社会に必要とされる資質・能力を育成する！ 山梨県立笛吹高等学校の挑戦～ 94

【基本編①】

これからの時代に求められる子供たちの資質・能力

#03 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

学びの「成果」として、子供たちが学んだことを人生や社会の在り方と結び付けて深く理解しながらこれからの社会で求められる資質・能力を身に付けていくためには、子供たちが学校における学びの「過程」において、主体的に学ぶことの意味と自分の人生や社会の在り方と結び付けたり、多様な人との対話を通じて考えを広げることが重要と考えられます。また、単に知識を記憶する学びだけがとどまらず、身に付けた資質・能力が様々な課題の対応に生かせることを実感できるような、学びの深まりも大切です。
「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善とは、特定の指導方法の「型」の普及を指すので



「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにする

Point 2

基礎編②

全ての子どもが「主体的・対話的で深い学び」をできるとは限らず、「個別最適な学び」を提唱する必要があった（令和答申）。

- 子供の多様性、特異性の配慮
- 誰一人取り残さず全ての子どもに（包摂性）

Point 3

基礎編②

その上で「協働的な学び」を追加

- 個別最適な学びで「個が孤立してしまわないように」配慮

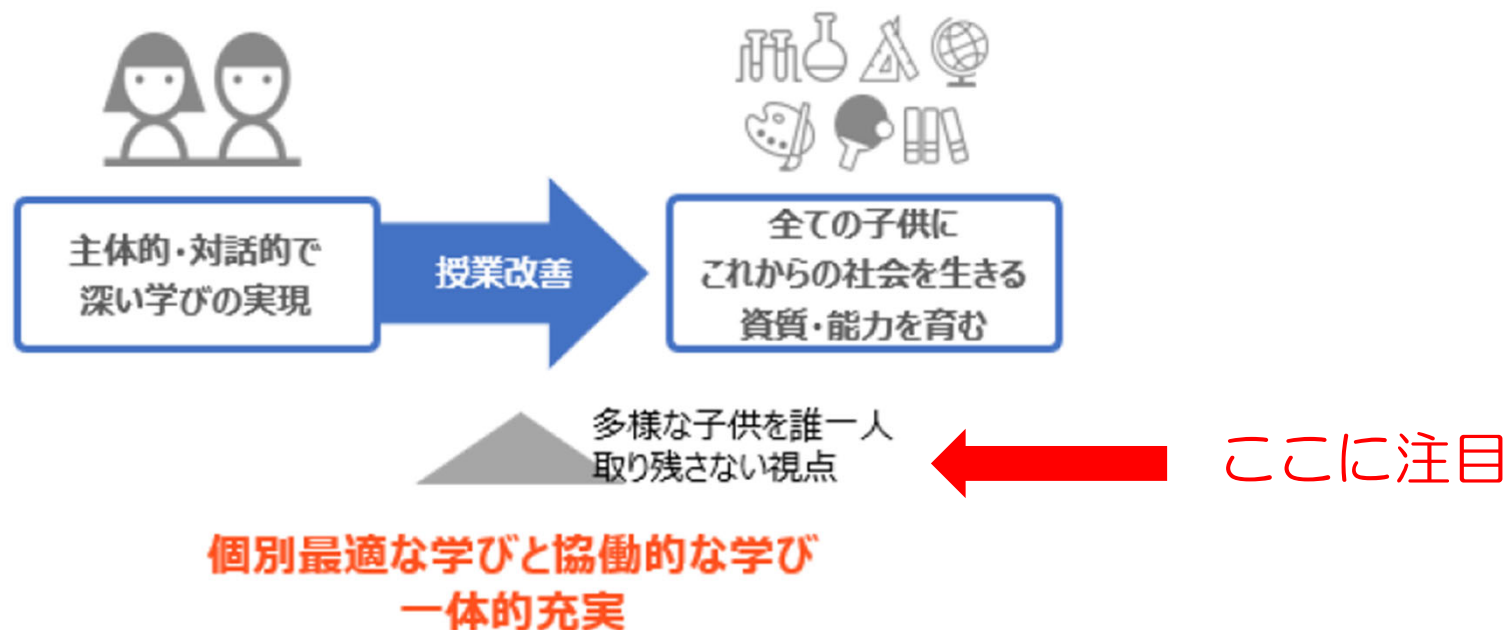


Point4

基礎編②

全ての子どもが「主体的・対話的で深い学び」をできるとは限らず、「個別最適な学び」を提唱する必要があった（令和答申）。

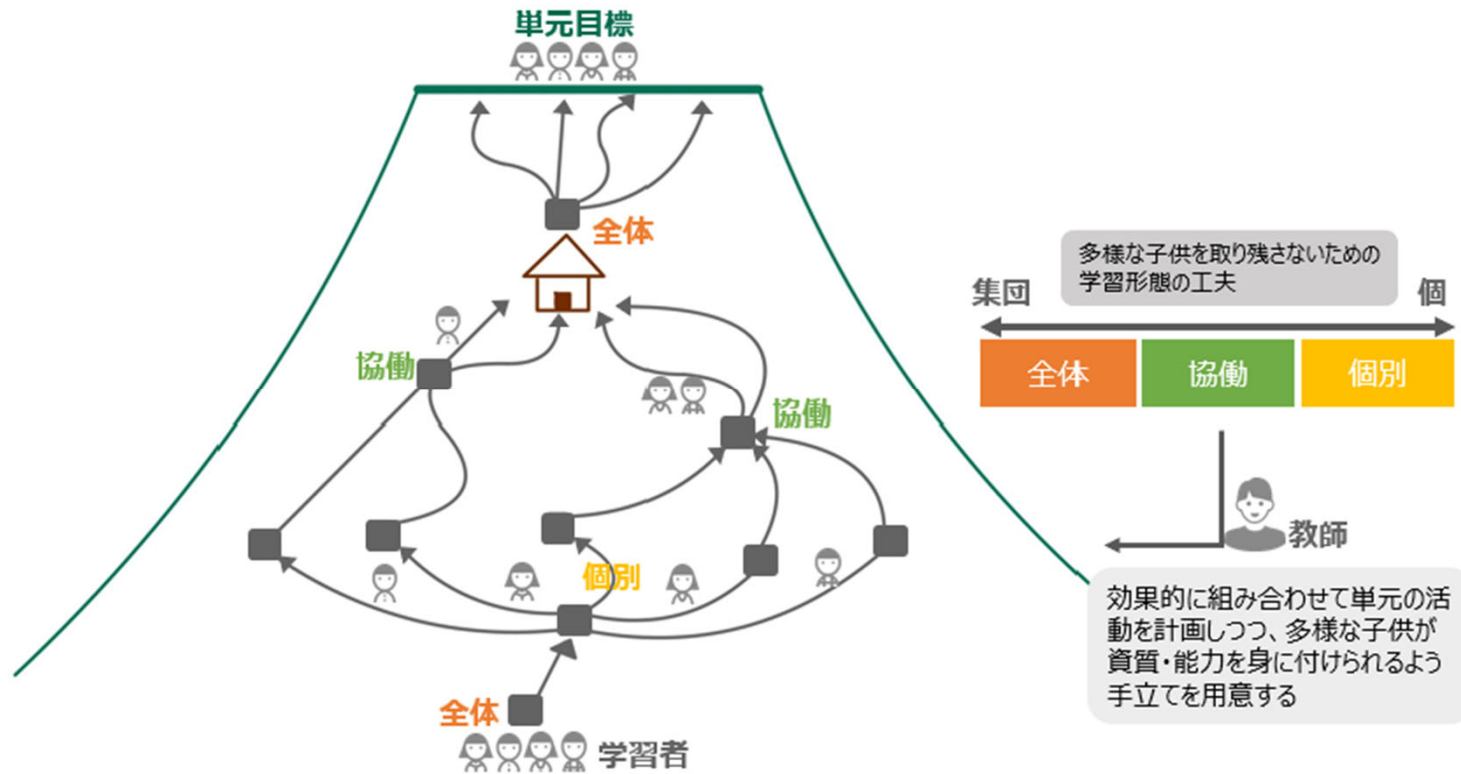
- 子供の多様性、特異性の配慮
- 誰一人取り残さず全ての子供に（包摂性）



Point5

基礎編③

学習は「（集団）全体—協働—個別（個）」のバランスの中で行われる



No333

文科省サポートマガジン『みるみる』が刊行！
「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」
は全体－協働－個別のバランスの中で実現

そのように言ってくれれば
実践は進みます！

溝上の解説：5つのポイント



2025年4月23日配信

動画チャンネル「溝上慎一の教育論」

個に応じた指導の二側面

①指導の個別化

②学習の個性化

は最終的にどこに落とし込まれるか？

- (1) 自己調整方略を始めとする学習方略の指導
- (2) デジタル学習基盤の徹底的整備
- (3) 柔軟な教育課程（調整授業時数制度）
 - > 「裁量的な時間」

検討資料④

個に応じた学習過程の充実について

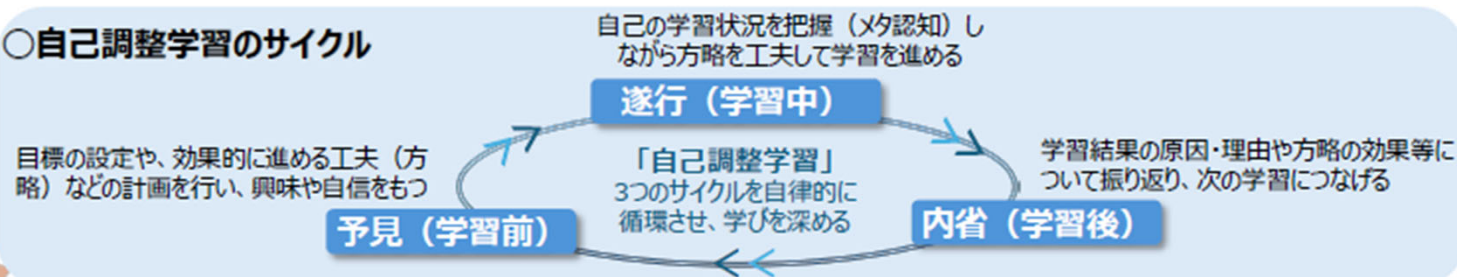
個に応じた指導の二側面

- ①指導の個別化
- ②学習の個性化 は最終的にどこに落とし込まれたか？

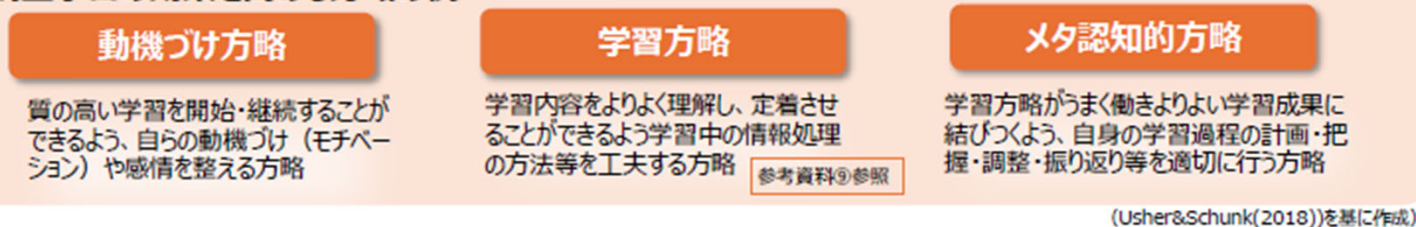
- (1) 自己調整方略を始めとする学習方略の指導
- (2) デジタル学習基盤の徹底的整備
- (3) 柔軟な教育課程(調整授業時数制度)
 >「裁量的な時間」「新教科」[義務教育]

◆自己調整学習のサイクルや、それを促進する要素等に関する研究上の知見

○自己調整学習のサイクル

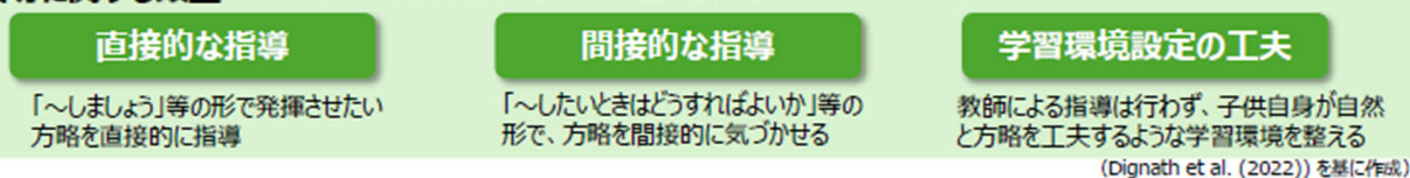


○自己調整学習の効果を高める方略の例



○方略の指導に関する類型

※研究では、教師による方略の直接的な教授の有効性が示されている



◆子供が自ら学習を調整しながら学びを進めるための学校現場の実践例 (単元内自由進度学習を含む、自治体や学校の事例等を基に記載)

単元や題材の設計

- 子供達が意欲的に取り組むことができ、全ての子供が育成したい資質・能力を育むことができるような単元や題材の設計
- 単元全体の目標や内容、流れを子どもと共有することで学習の見通しの明確化
- 個別・協働・一斉といった学習活動の効果的な配置

多様な学習材料の提供
足場かけの準備

- 子どもが自分の力で学ぶことができ、自らにとって学びやすいものを選択できる多様な材料の提供
- 子どもの特性や学習スタイルに応じて選択できる多様な学習材料の提供
- 学習の見通しを持つことや学習の進捗状況の把握、学習の振り返りがしやすい学習材の開発 等

学習環境の整備

- 安心して学習に取り組める空間づくり
- デジタル学習基盤も活用しながら、生徒間や外部との協働を通じた学びの深まりや、生徒自身が学習に必要な情報に必要なタイミングでのアクセスを可能とする 環境づくり 等

教師による自己調整学習の促進の例

参考資料②

(Dignath et al. (2022) "Assessing How Teachers Enhance Self-Regulated Learning Coding Guide"を基に作成)

動機づけ方略

質の高い学習を開始・継続することができるよう、自らの動機づけ（モチベーション）や感情を整える方略

学習課題の意義づけ・価値づけ

取り組む学習が、目標に照らして努力に見合う価値があると実感することで動機づけを高める

学習環境の調整

自身が学習に集中できるように学習環境を整える

他者との協働や支援の活用

友達に聞く、協働する、教師や保護者の支援を求めるなど、学習を進める上で必要な社会的リソースを整える

自己肯定感の維持

学習成果の要因を、変えられない又は外部的な要因（自らの遺伝的能力等）に求めず、自分で変えられる又は内部的な要因（学習方略等）で捉え、自己肯定感を支える

意思や注意のコントロール

学習に関係のない思考を抑え、学習の目標を達成するための活動に注意を振り向ける

学習方略

参考資料③参照

学習内容をよりよく理解し、定着するよう学習途中の情報処理の方法等を工夫する方略

反復方略

学習した内容が長期記憶として定着するまで、繰り返し学習できるようにする

精緻化方略

理由や意味を付け加えるなど、新たな学習内容を、既存の知識と関連付けて深く理解できるように工夫する

組織化方略

同じ点に着目して情報を整理する、内容を要約するなど、新たな学習内容の中で関連付けを行い、体系的に理解できるように工夫する

メタ認知的方略

学習方略がうまく働きよりよい学習成果に結びつくよう、自身の学習過程の計画・把握・調整・振り返り等を適切に行う方略

計画方略

学習活動に先んじて、学習過程の計画、目標設定、学習方略の選択等を行う

モニタリング方略

学習過程において理解度等を自分に確認することで、学習の進捗を確認する

評価方略

実際の学習活動終了後、学習の進捗を当初の学習目標と照らし合わせる

調整方略

学習目標を達成したか確認したあと、進捗状況に応じて自身の学習方略等を調整する

自己調整学習を促進する教師の関わり方の類型

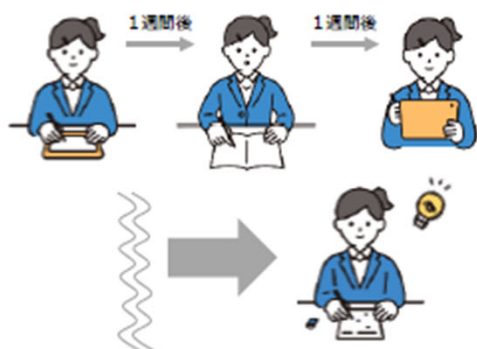
- ①直接的な方略指導 : 教師が方略を意図的に指導することで、児童生徒の方略に対する認識と、具体的な行動を促す
- ②間接的な方略指導 : 教師は特定の方略を明示しないが、問いかけ等を通して児童生徒の方略に対する認識と、具体的な行動を促す
- ③学習環境設定の工夫 : 児童生徒が自己調整学習を行う必要がある環境を設定し、児童生徒が自然と方略を工夫していくことを促す

認知心理学の知見に基づく効果的な学習方略の例

参考資料③

分散学習

時間の間隔を空けて復習することで、長期的に学習内容を定着しやすくする



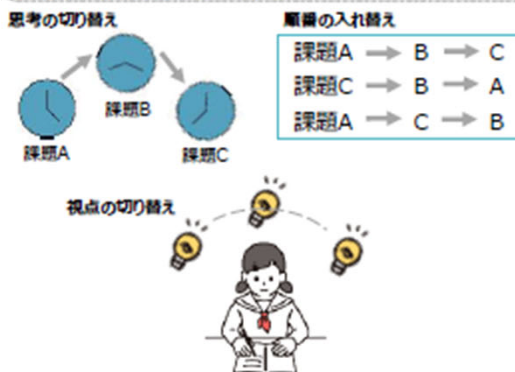
検索練習

学習内容を積極的に思い出す練習をする事で、記憶の定着と新しい状況での応用につながる



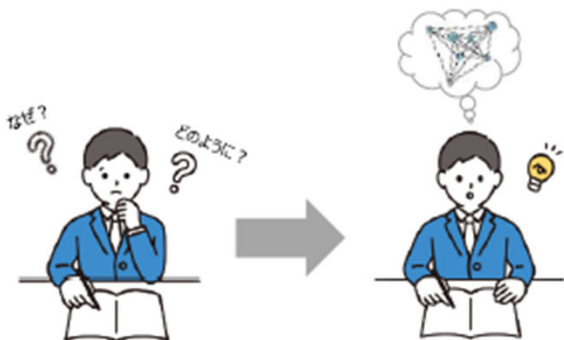
交互配置 (インターリーブ)

同じような問題を解き続けるのではなく、トピックを切り替えながら学習する



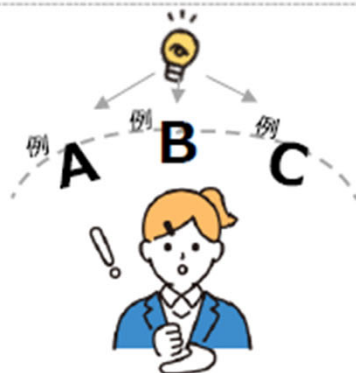
精緻化

理由や意味など、学習している内容に情報を加えて深く、多角的に理解する



具体化

抽象的な概念を学習する際、具体的な例を用いて説明する



二重符号化 (デュアルコーディング)

言語的な情報と視覚的な情報を組み合わせることで、情報を思い出しやすくする



(Weinstein et al. (2018) で挙げられている、研究上一貫して良い効果を示されている6つの効果的な学習方法について、「認知心理学者が教える最適な学習法ビジュアルガイドブック (東京書籍)」を参考に文部科学省作成)

6

- GIGAスクール構想第2フェーズ
- 情報活用能力は特定教科だけで育てるものではなく、全教科・探究・日常学習を通して育成する
- デジタル教科書

個に応じた指導の二側面

①指導の個別化

②学習の個性化

は最終的にどこに落とし込まれるか？

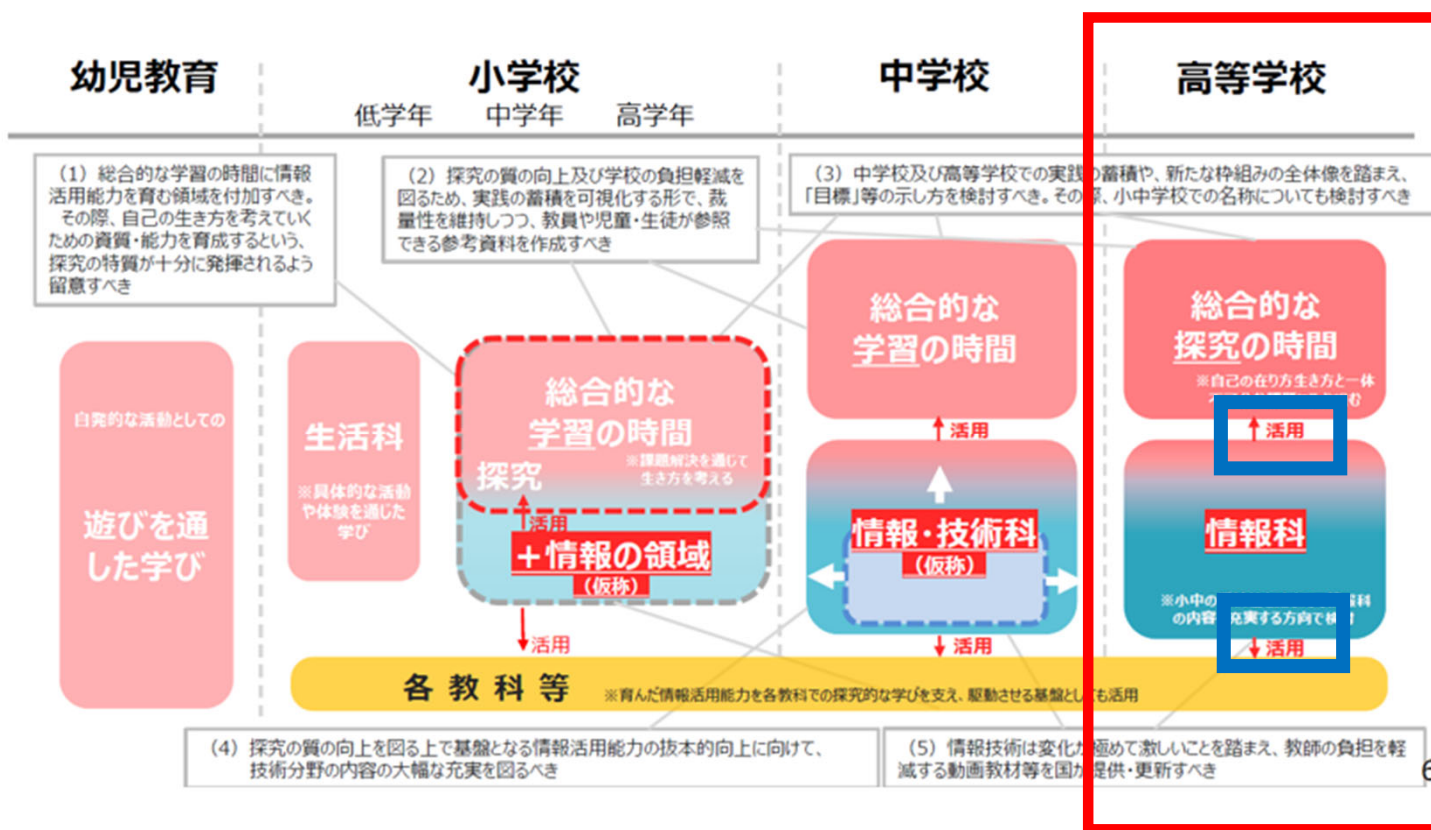
(1) 自己調整方略を始めとする学習方略の指導

(2) デジタル学習基盤の徹底的整備

(3) 柔軟な教育課程（調整授業時数制度）

> 「裁量的な時間」

総合探究 をカップリングさせて、各教科等へ広げる戦略



『論点整理』 (2025年9月25日)

- 情報活用能力は特定教科だけで育てるものではなく、全教科・探究・日常学習を通して育成する
- 「教科情報」（情報科、情報・技術科[仮称]）を中核に据える。生成AIの対応も専門的に対応して教育課程全体へ広げる

義務教育段階の柔軟な教育課程の方向性(調整授業時数制度)

『論点整理』(2025年9月25日)

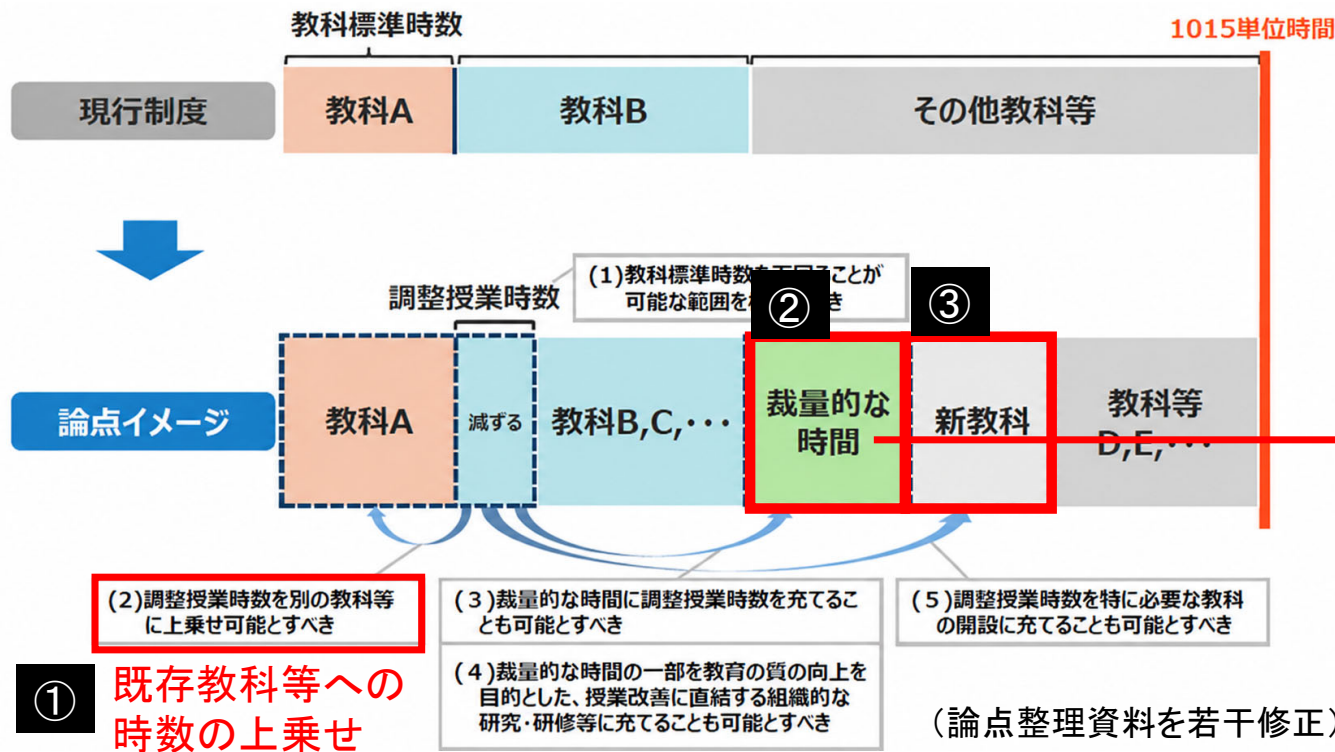
(柔軟な教育課程のねらい)

- ・ 学校独自のカリキュラム・マネジメントのいっそうの推進を促す
- ・ 学校教育目標に基づく資質・能力の育成
- ・ 独自の事情(児童生徒の能力や特性、地域事情など)を考慮した学校の取り組み

個に応じた指導の二側面

- ①指導の個別化
 - ②学習の個性化
- は最終的にどこに落とし込まれるか?

- (1) 自己調整方略を始めとする学習方略の指導
- (2) デジタル学習基盤の徹底的整備
- (3) 柔軟な教育課程(調整授業時数制度)
> 「裁量的な時間」



<裁量的な時間>

- (1) 柔軟な教育課程のねらい
- (2) 多様性の包摂
- (3) **個に応じた指導**
 - ・ 探究の深掘り
 - ・ 復習や発展的学習など自己調整学習など
- (4) 教員の研究・研修等の時間の充実

個に応じた指導の二側面

①指導の個別化

②学習の個性化

は最終的にどこに落とし込まれるか？

- (1) 自己調整方略を始めとする学習方略の指導
- (2) デジタル学習基盤の徹底的整備
- (3) 柔軟な教育課程（調整授業時数制度）
 - > 「裁量的な時間」

ご視聴有難うございました
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

